

さよなら、わたしのおしげさん

よし川 ひな

わたしは、おやつをたべているときかっ
てもしおわせです。ふわふわのわたかし、あ
まいチョコレート、ふにふにグミ。学どうか
らなってくると、きょうのおやつはなにかな
？とたのしみにしていました。

はいしげさんからは、^ッダラダラたべちゃ
ダメだよ。はか^カとけておしげになるよ。とな
んともいわれていました。でも、わたしはこ

ところの中で、わたしのはは、へいき^レと
おもっていました。

ところか、ある日のことです。だいすきな
ポテトチップスをたべていたらきゅくにはか^カ
ッキーン^ッ！^ッといたくなりました。あれ、
おかしいなとおもって、おかあさんにいい
ました。

はいしげさんにいくと、なんとおしげがニ
本もありました。先生は、^ッしんけいの手ま
えまでおしげがすすんでいるよ。もしかする

と、しんけいまで、やられているかもれない
かどといいました。それをきけたとき、わた
しのころは、ずーんとおもくなりました。
わたしのはは、へいさいとおもっていたの
に、ぜんぜんへいさいありませんでした。
となりについて、おかあさんのかおを見ると、
とてもかなしそうなおでした。わたしもか
なしくなりました。

はいしやさんは、いたくないように、てい
ねいに、ちりょうをしてくれました。ギーン

というさかいの音はいやだ。だけれど、かん
ぱりました。いまは、しんぱんをきいて、し
めまはすおもはせられはしてもらって、ち
やいたくありません。わたしは、はいしやさ
んとおかあさんと、たいせつなやくそくをし
ました。それは、おやつのかんをきめて、
ドラドラたべないことです。

おいしいものをたべるためには、このやくそ
くをぜったいにまもります。これから、は
をずとずとたいせつにしていきます。